

学校だより



つよく あかるく すなおに

第4号

学校教育目標

学ぶことを楽しみ、次の学びに意欲がもてる子どもを育てる

北海道教育大学附属特別支援学校 令和元年7月12日（金）発行

体育祭～最高の笑顔を！きりのめ魂！～

生活支援部長 中村 耕太郎

今年度のきりのめ体育祭は、雨のため、体育館開催となりました。普段の練習とは異なることもあり、不安を抱く児童生徒もいましたが、進行とともに少しずつ慣れて、出場競技では練習の成果を十分に発揮してくれました。保護者、地域関係者の皆様、様々な面でご支援・ご協力いただきましたことを感謝いたします。誠にありがとうございます。

開会式では、学級代表委員が「あきらめないで最高の笑顔を！きりのめ魂！」というテーマを、カードを掲げて発表しました。その後、高等部の生徒による、選手宣誓で体育祭のスタートを切ることができました。

小学部では、普段の学習成果を、サーキット運動や玉入れを通して見せることができました。団体競技「小学部玉入れ大会！！」でのパプリカダンスは、音楽の変化を聴き分けて、楽しい気持ちを体全体で表現していました。

中学部の個人競技「きりのめチャレンジZ」では、生徒が自ら設定した目標の達成を目指して、ハードルを跳んだりサッカーボールをシュートしたりしました。本番で新記録を出す生徒も多数おり、目標達成を喜んでいました。

高等部の団体種目「息をあわせてボールリレー」は、本年度の新競技でした。競技の練習を通して、紅白それぞれが団結力や仲間意識を高めることを目指して練習を進めてきました。本番では、生徒がペアの相手と動きを合わせたり、声をかけ合ったりしながら一緒に走る姿が印象的でした。

体育館での開催ということで、どの競技も近くで児童・生徒の迫力を感じながら観覧していただけたのではないのでしょうか。結果は紅組の優勝でしたが、紅白両方とも本番に向け一生懸命練習を積み重ね、心をひとつにして取り組んでくれました。この経験を生かして、自分の良さに気付いたり、仲間とかがわり合ったりする力を日常生活にも生かしてほしいと思います。

本年度もPTAとの共催として、保護者の皆様からは、たくさんのご協力を頂きました。また、集まった同窓生の皆様からもあたたかいご声援を頂きました。地域の皆様、用具の搬入等でご協力くださいましたボランティアの皆様など、体育祭実施にご協力いただきましたたくさんの方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



育成を目指す資質・能力と知的障がい教育の学び

研究部

保護者や関係者の皆様には、日頃から本校の研究活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本年度の公開研究協議会は、7月20日（土）に開催いたします。公開研究協議会では、授業公開、グループディスカッション、ポスター発表、シンポジウムを予定しております。

次年度以降に実施される新しい学習指導要領の中では、これからの時代は、生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により、社会の構造が大きく変化し、予測することが困難な時代になるとされています。そのような時代においても、子ども達が未来の創り手となるために必要な資質・能力（生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養）の育成を目指すことが重要であるとしています。

そこで、本校の研究では、本校で育成を目指す資質・能力を明確にし、小学部から高等部までの系統性を踏まえた授業づくりに取り組んでいます。3年計画の1年目となる本年度は、研究の副題を「これからの函館で自分らしく生きるための学びのデザイン」とし、将来の函館（北斗市、七飯町も含む）の地域の様子を教職員で想像し、意見を出し合いました。そして、本校の児童生徒が将来、この地域で自分らしく生きるための視点から、育成を目指す資質・能力を整理しています。また、それらの資質・能力の育成を目指す授業づくりに現在取り組んでいます。公開研究協議会や研究の成果については、子ども達の教育活動に十分に還元していきたいと思っております。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

